

## 令和元年度第1回れんけいこうち広域都市圏ビジョン推進懇談会 議事概要

・インバウンド観光に関して、オリンピックとLCCの話が出なかった。オリンピック直前の数か月間、東京ビッグサイトで各都道府県の映像が流されるが、これの出来不出来で地方の観光が左右されるという話が文化庁の杉浦審議官からあった。海外メディアが自国でそれを放送することで日本、東京、高知を無料で宣伝してもらえ。ロンドンオリンピックの際、顕著に良かった映像のところは外国人観光客が多く来たという話なので、県、れんけいこうち、県観光コンベンション協会いずれが主体となって実施するのが気になった。(田村忍委員)

⇒オリパラの有効活用は、県として非常に力を入れている。メディア対策として、8月のよさこい祭りでは世界7か国・11社のメディアを招いて取材、発信していただいた。他の都道府県も含めたコンテンツ勝負になるので、いかにいいものを作っていくか。県がやるべき事業と思っている。(高知県高知市地域本部)

・オリパラの果実を高知に引っ張ってくる最終的な方策は情報戦。情報戦の展開についての知見を集めたり、長けた人の意見を聞きながらできることからやっていくということと、お金をかけることに関するコンセンサスを取って進んでいく必要がある。オリパラは千載一遇のチャンスで、その後どういうレガシーが残るのかを含めて議論を深めていく必要がある。(黒笹委員)

⇒ウェブを作るだけで多くの方が興味を持って見てくれる時代ではない。ターゲットを絞り込んで興味のある内容を発信して導くことは当たり前。範囲の限定手法やマーケティングを誰がやるのかによって予算も劇的に変わっていく。(受田座長)

⇒先日も産振本部会議で情報戦に関して議論をしたが、今の段階で詳細は決まっていない。予算や体制面も含めてこれから議論を深めていこうという状況。いずれにしても情報が非常に大事なので、限られた予算を効果的に発揮するための戦略について色んな方から意見を聞き、ロビー活動も含めてやっていく。(高知県高知市地域本部)

⇒ポストオリパラについて、どのくらいの期間で何をめざしていくかが非常に重要。相当大所高所から見えないと情報戦には勝てないので、その視点をしっかり持って議論を深めていただき、その果実がれんけいこうちの枠組みの中で各市町村のメリットとして表れていく方向性を描かなければならない。(受田座長)

・帯屋町に外国語対応の観光案内所ができたが、今後高知空港や高知駅などの結節点での外国語対応の観光案内はどのように展開していくのかについて、AIを活用した外国語観光案内システム「tosatrip」の年間利用者数の目標値3,662人をさらに広げる方法について、外国客船寄港時に運行するバスは試行期間のため無料としていると思うが、有料の周遊コースに発展させられないのかの3点について教えていただきたい。(杉本委員)

⇒れんけいこうちの枠組みで観光案内所を発展的に作りこんでいくにあたっては、高知市以外

が実施主体となった場合の財源が課題となる。連携中枢都市圏のプラットフォームに当てはまるかを検証していく必要がある。(高知市総務部)

⇒ご指摘のとおり「tosatrip」の利用数はまだ少し低い状況。課題のひとつは操作性。AI を使っており、利用実績を伸ばせば伸ばすほど操作性が上がるという特性があるが、事業者とも協議しながら操作性をさらに高めるよう改善を加えている。また、YouTube を中心に Facebook も使って PR していきたい。(高知市観光振興課)

⇒県内の外国人向け観光案内所は、平成 26 年度の 3 か所から令和元年度末に 18 か所とする予定。結節点に関しては高知駅前の観光案内所のコンシェルジュ機能を強化することに加え、観光案内所同士の連携強化を進めている。高知空港に関しても担当部局に話をする。(高知県高知市地域本部)

⇒バスの運行に関して、船会社は乗客にオプションツアーに参加してほしいというのが第一で、それを阻害する動きはしないしてほしいというのが理屈。バスを無料で運行すること自体やめてほしいと言う船会社もあれば、乗客の満足度が高まるのでいいと言うところもあり、調整が難しい。よく船会社と話をしていきたい。(高知県高知市地域本部)

・ひろめ市場が観光で大きな役割を担っているのは周知の事実。高知のことを分かってもらうのに、ひろめ市場はものすごくわかりやすい情報発信装置で体験装置。例えば「ひろめ」で「れんけい小間」で「食」のような形で連携市町村の食を提供できる場所を確保するなど、ひろめ市場の有効活用ができないか。また、難しいとは思いますが高知新港の高台に第二ひろめ市場があって、完全にインバウンド対応ができており、そこにれんけい小間が入っているのが理想形だと思う。ポストオリパラの大きな目標として挙げて、人材と予算を集中させるような大胆なことがほしい。ジャストアイデアだが、ひろめ市場の観光とインバウンド、連携のチャンネルでの効果的な利用と新しい取組を議論できると面白い。(黒笹委員)

⇒ひろめ市場は国内外からの観光に大変寄与していただいている。ご意見の趣旨を踏まえ、人の多く集まるところで高知全体を PR していくことは検討していかなくてはならない。れんけいこうちでやるのか、あるいは別の枠組みでやるかを踏まえて検討していきたい。(高知市中澤副市長)

⇒ビジョン懇談会はれんけいこうちについて議論する場所。れんけいこうちとしてひろめ市場とどんなことができるかという視点からの検討をお願いしたい。(黒笹委員)

⇒貴重なご意見だと思う。高知市を中心にれんけいこうちの中でいかに前向きなものが描けるかが検討いただきたい。(受田座長)

・観光客動態調査事業について、れんけいこうちのホームページに調査結果報告書が公表されている。高知県の来訪者の経路や年齢・性別・時間別の動向等が地域別に数値化、分析されており、地域や観光施設ごとの特徴が見える化されている。今後、これを地域の関係者と共有して商品開発や関連サービスの展開、計画づくりに活かしていかなければならない。ワークショップや報告会をできるだけ多くの関係者に参加していただきながら継続してやっていただきたいが、事業所に一番近い存在である商工会や経営指導員といった組織や人をうま

く使うことができないか。これまで開催したワークショップや報告会にはどんな方が参加されているのか、特に商工会の参加状況を教えていただきたい。(亀井委員)

⇒ワークショップは行政関係者を対象に実施した。以降、高知市旅館ホテル協同組合の皆様へご説明をしている。(高知市観光振興課)

⇒商工会は地域の事業者に対する支援計画を策定しており、国の認定を受けるという取組を進めている。その計画の中には観光振興も含まれており、これまでは県の観光客入込客数の統計データを基に分析して計画を作ってきた。今回の観光客動態調査データを活用すればより良い計画も作ることができ、商工会の支援業務精度向上につながるので、商工会連合会との連携も検討していただきたい。(亀井委員)

⇒データは宝の山なので、民間事業者がこれを他との競争優位な差別化に活用できるような仕組みが見えてくるといい。行政が組織的に支援すると民間事業者のチャンスを奪う可能性があるが、この辺りの考え方はどうか。(受田座長)

⇒県で以前、龍馬パスポートを活用してどの施設のあとにどこに行くのかを調査した。これを分析することで営業や事業者の作戦にも使えるので、このデータはフル活用すべき。どんどんオープンにしていきながら、行政がやる部分と事業者の業としてやる部分の整理が難しいので丁寧に説明する必要はあるが、活用すべきというのは間違いない。(高知県高知市地域本部)

⇒調査結果の公表データはPDFファイルになっている。これから地域や事業者レベルでクロス分析もしたいと思うが、事業者側が加工できるようにはならないか。(亀井委員)

⇒受託した会社にお金を払えば提案型でデータ分析結果を出していただける。(高知県高知市地域本部)

⇒データを利用して戦略を練るといのは高知県以外でもやっていると思うが、それを利用した良好なケースの情報はあるのか。(黒笹委員)

⇒広島県のある観光施設が、動態調査の結果を基に閉館時間を遅らせて近隣の商店街に人を誘導し、相乗効果を発揮したという成果を聞いており、そういう使い方ができるのではないかとということでスタートしたところもある。(高知県高知市地域本部)

⇒こういった観光客動態調査はあまり大掛かりにやられたケースはないので、かなり先駆性がある。本来ならシンクタンクなどの機関があって活用を検討していくことになるがまだ使い切れていない可能性があるため、次の展開が勝負だと思う。(受田座長)

- ・高知県は高齢化が進行しており運転免許証返納の問題があるが、観光だけではなく生活の面でも交通網について連携して考えていくべきではないか。「とさのさと」や「とさてらす」に観光をPRするところがあっても、そこに行くための交通網を考えていけないといけない。二次交通については県でという話もあったが、公共交通だけでは賄いきれないので、そういった連携も議論があればいいと思う。客船ではかなりの人数が来ているが、実際にお金を落としてくれる、長く滞在する方をターゲットにするほうがいいと思う。(西村委員)

⇒生活の足の部分をれんけいこうちのプラットフォームでどう見るか。市町村がオンデマンドの公共交通機関を用意したり、今後は「Society 5.0」に関して「MaaS」(Mobility as a Service)

として、どう生活者の足を確保していくか工夫をされると思う。それをれんけいこうちの枠組みで高知市とどう組んでいくか、それぞれの総合戦略の策定とつなげて考えていただくといいと思う。(受田座長)

- 担い手の問題や人と人のつながりの問題で、地域が元気じゃないと地域の福祉は成り立たないと最近よく言われている。お酒を日曜市で売りたいという要望が中山間地域の町村から出ており、ぜひ前向きに考えていただきたい。着地型観光について、佐川町の「わんさかわっしょい体験博」は大変いい内容。これは観光の取組だが、ある意味地域おこしの取組でもある。中山間地域の町村を、豊富に人口を抱える高知市が応援する形での連携は地域おこしに広域で協力して取り組むということ。ぜひ前向きに考えていただきたい。(田村壯児委員)

- れんけいこうち広域都市圏は国の連携中枢都市圏の範囲よりも広い。連携中枢都市圏は生活圏で中心となる場所と連携する制度だが、れんけいこうちの場合は広域観光など生活圏を越えた取組がメインとなっている。1年目は手探りで進めていたかと思うが、2年目に入り、先般開催されたれんけいこうち広域都市圏推進会議の意見を聞くと、この枠組みを使ってみようという動きが定着しつつある。県がやるべき仕事とどう役割分担していくかが大事で、今日のご意見にもあったオリンピック関係のインバウンド対応は県が戦略を立てて外国に対して高知を知ってもらうため、旅行会社と手を組んで取組を進めている。これをれんけいこうちでも知っていただき、いい意味で県とれんけいこうちと役割分担して進めていくのが非常に大事だと思う。ビジョン懇談会の意見も踏まえつつ、担当者レベルの打ち合わせで密な情報共有を図っていききたい。(君塚副座長)

⇒れんけいこうちの枠組みと県の果たすべき役割のすみ分けは非常に悩ましい。いただいたご意見をどうすみ分け、効果的に施策化あるいは予算化していけるか、行政の皆様には知恵を出してこの枠組みを積極的に活用できるお立場を活かしていただきたい。今年度は来年度以降の5年に向けて極めて重要なターニングポイントになるので、こういった強力なツールを活かしていっそう行政を越えた連携体制を活用し、高知市としてはそれをサポートする役割を担っていただきたい。(受田座長)